

次世代モビリティについて

■ 次世代モビリティの必要性

- 堺都心部は、大道筋、大小路筋が南北・東西の軸を形成。
- 一方、市民や来訪者のニーズにきめ細かく対応し、回遊を促進するためには、面的・局所的な移動を支援する必要がある。

■ 次世代モビリティの役割

- ① 公共交通との役割分担（競合回避）・連携により、主にラストワンマイルとしての移動・回遊を支援する移動手段
- ② 快適かつ安全に、またデザイン性にも優れたモビリティにより、ゆったりと堺都心部を楽しみながら移動できる手段

■ 導入するモビリティ

移動・回遊支援となるモビリティの活用を想定

SMIプロジェクトがめざす方向性



出典：SMIプロジェクト～ポイントとめざすべき方向性～（令和4年5月）に加筆

・移動・回遊支援として、以下のようなモビリティを対象とする。

【シェアサイクル】

・「堺市シェアサイクル事業」では、市民や来訪者等の回遊性向上のため、OpenStreet(株)の電動アシスト自転車を活用



【電動パーソナルモビリティ（例）】

・電動車いす（歩行者扱い）タイプで、障害者のみならず高齢者や子供でも利用可能



- ①公共交通との役割分担（競合回避）・連携により、主にラストワンマイルとしての移動・回遊を支援する移動手段

シェアリングによる
移動手段の提供
（自由な移動）

モビリティポートを拠点とした活用



- ②快適かつ安全に、またデザイン性にも優れたモビリティにより、ゆったりと堺都心部を楽しみながら移動できる手段

ツアー等の
付加価値化
（決まった移動）

観光施設等を拠点とした活用



■モビリティポートの配置の考え方

- 面的な移動・回遊支援のニーズが高いと想定される、文化・観光資源が点在するエリアの近辺とする。
 - 堺駅周辺（堺旧港など）
 - 綾之町周辺（町家・寺社など）
 - 大小路・宿院周辺
（伝統産業、観光施設など）
 - 御陵前周辺（寺社など）
 - 堺東駅周辺（古墳など）
- モビリティポートの設置箇所は、公共交通からの乗換を想定し、駅や停留所（場）などの公共交通の乗降場所を基本とする。
- 詳細な設置箇所は今後検討。
- 導入するモビリティや管理・運営方法等の課題について、公民連携により課題解決が必要。

